

シリーズ

「仕方なし復興」に抗って風を起す

2020年3月で、東日本大震災から10年目の年を迎えました。ついに双葉町と富岡町の一部で避難指示が解除されて立ち入りが自由になり、原発事故対応の拠点であったJヴィレッジは聖火リレーのスタート地点とされ、県をあげての目玉政策『イノベーション・コースト構想』は、復興の担い手として子どもたちを巻き込みながら推し進められています。

これらの「明るい」ニュースを横目に、まわりに耳をすませば、「仕方ない、仕方ない」の声があちらこちらから聞こえてきます。「復興」の裏で、何か置き去りにされていないでしょうか。見えなくさせられていないでしょうか。諦めさせられていないでしょうか。

政治学者の丸山真男さんは、「現実だから仕方がない」と諦めて傍観する「現実主義者」のあり方に疑問を呈しながら、日本の民主主義は〈仕方なしデモクラシー〉であると痛烈に批判しました。いま私たちがこの「復興」の動きに名前をつけるとしたら……〈仕方なし復興〉と呼びたい。そして、せめて抗った爪痕を遺し、次の10年を諦めの結果の産物とするのではなく、私たち自身がつくっていく一歩を踏み出したいのです。「原発事故は起こってしまったから仕方ない」などは決して言わないために。そのヒントを探して、いまお話を聴きたい方々の講演と、参加者との対話の会を、年間通して開催します。

シリーズ第2弾

歴史の帰結としての「3.11」、そして今も終わらないもの

講師 **神田香織さん**
(講談師)

蟻塚亮二さん
(精神科医)

福島はなぜ原発立地県となり、なぜ東京電力福島第一原発事故は起こってしまったのか。神田さんと蟻塚さんには共通して、東北の受難の歴史への、そして原爆や沖縄戦やチェルノブイリの惨劇の歴史への、深い眼差しがあります。それらが奪ってきた「人間の尊厳」を、神田さんは講談で語り、蟻塚さんは医師として寄り添い、回復しようと奔走されてきました。そして現在、原発事故避難者のPTSDが深刻な状況であると、蟻塚さんは警鐘を鳴らします。「3.11」へつながる歴史と、「3.11」からつながる現在について、ともに学び考えませんか？



2020年 **4月25日** (sat)

16:00 ~ 20:00

第1部 講演
第2部 ディスカッション
第3部 質疑応答 の三部構成

須賀川市民交流センター **tette** ルーム 1-1
(福島県須賀川市中町 4-1)

参加費 … 1,500 円 (高校生以下無料)

【要申し込み】

- ① 予約フォームからお申し込みください。
- ② メールやお電話でもご予約いただけます。

メール … happy.island311@gmail.com

電話 … 090-5237-4312 (スズキ)



蟻塚亮二 | ありつか・りょうじ
1947年生まれ。弘前大医学部卒。精神科医。85年から97年まで弘前市の藤代健生病院院長。うつ病と2回の大腸ガンを体験。04年から13年まで沖縄県沖縄共同病院に勤務。現在相馬市メンタルクリニック「なごみ」医院長。著作「うつ病を体験した精神科医の処方せん」「統合失調症とのつきあい方」「沖縄戦と心の傷」近著に「3.11と心の災害」。

神田香織 | かんた・かおり

福島県磐城女子高校卒業後、東京演劇アンサンブル、渡辺プロダクションドラマ部を経て1980年二代目神田山陽門下生となる。二つ目に降ジャズ講談や一人芝居の要素を取り入れた神田香織独自の講談を次々発表、講談の新境地を切り開いている。2011年の震災後、NPO ふくしま支援・人と文化ネットワークを立ち上げふるさと福島を支援し続けている。1986年「はだしのゲン」発表。1989年真打昇進。2002年「チェルノブイリの祈り」発表。2013年「福島の祈り」発表。その他多数。

主催 **NPO はっぴーあいらんど☆ネットワーク** <http://happy-island.moo.jp/>